

7. センターを運営する学生スタッフの育成

大学ボランティアセンターの運営形態は大学によって様々ですが、本学のボランティア・NPO 活動センターでは、教育職員・事務職員・学生スタッフの三者が協働して運営しています。中でも、学生スタッフは「ピアサポート」という観点から、本学学生のボランティア活動を応援する重要な役割を担っています。

ボランティア相談をはじめとする日常的なコーディネート業務、チラシ整理やメールマガジン、SNSなどでの情報提供、ボランティア活動を始めるきっかけとなる様々な企画など、学生スタッフが取り組んでいることは多岐にわたり、そのためには幅広い知識や経験が必要となってきます。

このことから、ボランティア・NPO 活動センターでは、ボランティア活動を推進していくために、社会課題に対する意識を持ち、社会に働きかけていく力をもった学生スタッフの育成を図るとともに、組織運営力、コーディネート力をつけることなどを目的として、学生スタッフへ様々な研修の機会を提供しています。

また、毎週の学生スタッフミーティングやほぼ毎月開催する教員・職員・学生スタッフでのセンター会議において、学生企画や教職員からの提案についての意見交換を行っています。さらに、教職員で構成された正式な学内組織であるセンター委員会にも学生スタッフの代表がオブザーバー参加しています。こうした会議への参加やセンターの運営への参画が、学生スタッフの育成として大きな意味を持っています。

事業名	令和2年度新入生歓迎行事
日時	2020年3月1日(日)～10月22日(木)
場所	龍谷大学深草キャンパス
実施主体	龍谷大学学友会中央執行委員会／ボランティア・NPO活動センター
企画メンバー (学生スタッフ)	神田 瑞季(経済3) 松尾 宗次郎(経済3) 山崎 迅一郎(経済3) 永野 凌平(経営3) 西村 志穂(政策3) 平尾 萌衣(政策3) 濱田 葵(文学2) 早川 歩伽(文学2) 川根 脩那(経済2) 石井 翔大(法学2) 園原 聖(法学2) 竹内 祐人(法学2) 谷垣 俊弥(法学2) 藤原 壱成(法学2) 小林 初音(国際2)

1. 経緯・目的

新入生に対して、龍谷大学ボランティア・NPO活動センター(以下、センター)の活動について周知するために、ブース出展やガイダンス等を行うこととした。それらを通してセンターや学生スタッフ(以下、学スタ)について関心を持ってもらい、新たな学スタの募集を目的として実施した。

今年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により例年通り実施することはできず、新しい方法を試行錯誤しながら進めた。

2. 概要

〈3月〉

新歓で使用するためのチラシと立て看板、勉強会資料の作成や、深草センター新拠点(成就館)への案内動画作成

〈4月〉

新歓活動中止により、ブース出展、チラシ配布、

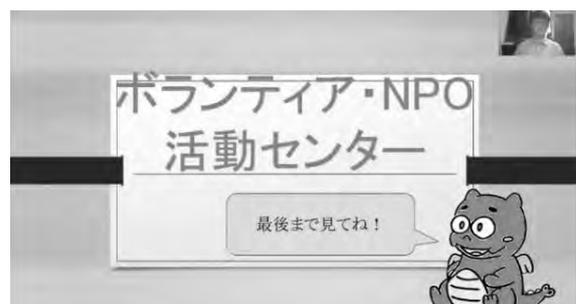
対面ガイダンスの中止。

〈5月〉

- ・『ついでと大作戦』(P.62～63)での新入生向け広報活動の開始。
- ・「ROSW 課外活動団体紹介 LIVE 配信」に出演
- ・オンラインガイダンスの資料作成

〈6月〉

- ・オンラインガイダンスの動画をYouTubeやTwitterへ掲載



〈7月〉

- ・修正版立て看板完成

〈8月〉

- ・入門講座の受講生への学スタ紹介、学スタ募集
- ・LINE オープンチャットの作成
- ・「オンライン雑談会」、「ボランティアの発見と実施」、「ガイダンス用年間スケジュール作成」のグループに分けて準備開始

〈9月〉

- ・オンライン雑談会を8日（火）に実施
- ・対面ガイダンスの各種準備
- ・授業内広報（法学部基礎ゼミ）

〈10月〉

- ・授業内広報（経済学部基礎ゼミ）
- ・1日から22日の間で、毎週火・木曜日に対面ガイダンスを実施



〈11月〉

- ・コアメンバーの振り返りを Google フォームで実施

3. 参加者の声・得られた効果など

新スタッフから、以下の声がありました。

- ・ガイダンスを受けながら大学生活が始まると思っていた。また、センターや新歓のおかげでいいスタートが切れたと思う。
- ・ガイダンスの時にセンターについてパワーポイントで分かりやすく説明されていてよかった。また、先輩方の生の声が聴けたことと、コーディネーターさんの説明があって、活動内容などを想像しやすかった。それによって興味が湧いた。
- ・真面目そうで意識が高そうな団体だと感じたため、馴染めるかなと思った。参加したガイダンスが男性のみだったため緊張した。

4. 学んだこと・今後の課題

- ・コロナ禍でもしっかりとみんなで協力し、臨機応変に対応できていた。その中で学スタそれぞれが活躍できる場があった。その結果、多くの新学生スタッフが入ってくれてよかった。
- ・Twitter や HP、ポータルサイトなどの SNS を活用した広報が効果的であったと思う。
- ・活動の大半がオンラインであったため、連絡を取ることができないなど、情報共有や意思表示が正確にできなかった。活動する中で仕事の分量が一部の学スタに偏り、一人当たりの負担が大きかった。情報共有等は随時行うべきであり、また仕事の分担は積極的に声をかけて行うべきだった。
- ・2月から準備をしていたが、それらはできなくなってしまった。そんな中でオンライン雑談会やオンラインガイダンス、SNS の活用など新しいことに挑戦できたという経験はとても良かった。

〈報告者：園原 聖〉

事業名	令和2年度新入生歓迎行事
日時	2020年3月1日(日)～10月22日(木)
場所	龍谷大学瀬田キャンパス
実施主体	ボランティア・NPO活動センター
企画メンバー (学生スタッフ)	水谷 芽衣(社会4) 赤木 宏斗(社会3) 東 里音(社会3) 高岡 宏幸(社会3) 堤 花成(社会3) 土肥 亮太(社会3) 平井 美来(社会3) 南 佳奈(社会3) 大屋 晴太郎(農学3) 渡中 新太郎(農学3) 小沼 芳暉(理工2) 朝野 健太(社会2) 杉山 わかな(社会2) 安原 拓真(社会2)

1. 経緯・目的

新入生に対して、龍谷大学ボランティア・NPO活動センター(以下、センター)の活動について周知するために、ブース出展やガイダンス等を行うこととした。それらを通してセンターや学生スタッフ(以下、学スタ)について関心を持ってもらい、新たな学スタの募集を目的として実施した。

今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により例年通り実施することはできず、新しい方法を試行錯誤しながら進めていった。

2. 概要

〈3月(前年度)〉

- ・新歓配布用チラシの作成
- ・学生スタッフ募集動画の作成

〈4月〉

- ・学生スタッフ募集動画をTwitterに発信



〈5月〉

- ・ROSW(Ryukoku Online Start-up Week)参加のための準備(申込・動画作成など)
- ・ROSWへ参加できず、新歓動画Twitterにて配信
- ・Twitterへの質問箱設置を提案
- ・オンラインガイダンスについて検討開始

〈6月〉

- ・オンライン学生スタッフガイダンス①開催

(Google Meet 活用)

17(水) 12:45～/17:00～

18(木) 12:45～

19(金) 12:45～/17:00～ 各回 40分程度

計 14名参加

- ・LINEオープンチャットの開設
- ・オンラインガイダンスの動画をYouTubeやTwitterへ掲載

〈7月〉

- ・オンライン学生スタッフガイダンス②開催

(Google Meet 活用)

9(木) 12:45～

10(金) 12:45～

14(火) 12:55～ 各回 40分程度

計 10名参加

〈8月〉

- ・入門講座の受講生への学スタ紹介、学スタ募集呼びかけ(Zoom活用・ガイダンス新規参加者なし)

〈9月〉

- ・後期新歓活動用チラシ作成

〈10月〉

- ・対面での学生スタッフガイダンス開催

5(月) 12:45～ 7(水) 12:45～

8(木) 12:45～ 12(月) 12:45～

14(水) 12:45～ 15(木) 12:45～

(その他個別対応) 各回 40分程度

計 12名参加

3. 参加者の声・得られた効果など

- ・2020年度新スタッフに12名が加入した。
〈ガイダンスに参加した新スタッフの声〉
- ・ガイダンスの質問コーナーで同じ学部の先輩と1対1で話せたことが印象的で、とてもやりやすかった。
- ・ものすごくフレンドリーで質問や授業のこと、私生活のこと、雑談等その他の話もしやすかった印象が強く残っている。

- ・質問タイムの時に、先輩が2人いたので、1年生1人でとても緊張した。
- ・職員さんからの説明の時に、ボラセンに入るかどうかで不安なことを職員さんに相談させてもらった。
- ・かっちりとした感じではなく、リラックスした雰囲気の中のガイダンスだった。楽しそうな雰囲気で緊張せずに済んだ。
- ・ボラセンのことについてあまり調べたりせずほとんど無知の状態で行ったが、先輩にフリップみたいなのを見せてもらいながら細かく説明してもらって写真等もたくさんあり、わかりやすく面白そうだなと更に興味が湧いた。
- ・説明が分かりやすかった。

- はないかと思うようになり、準備を始めた。やってみることの大切さに改めて気付いた。
- ・オンラインガイダンスを告知したところ、深草キャンパスにある学部の学生からも申し込みがあった。そのため、深草の学生スタッフにも参加を呼び掛け、一緒にガイダンスを行うことで、深草の活動についての質問に対応してもらうことができた。オンラインを活用することで、キャンパスを越えて活動するという経験を持つことができた。
 - ・ガイダンスでは画面共有をしながら説明を行うにあたり、文字の量を少なくし、見やすさを意識した。また、説明の後には少人数に分かれての個別質問、相談の時間を設けた（Google Meet の場合は複数の会議室の設定、Zoom はブレイクアウトセッション）。
 - ・対面でのガイダンスは、感染予防のため、人数を制限して実施した。そのため、事前申込制として、Twitter やポータルサイトを活用して広報した。参加人数が事前にわかるため、資料の用意などがしやすかった。

〈報告者：東里音、渡中 新太郎、杉山 わかな〉

ボランティア・NPO活動センター(瀬田)
(通称 ボラセン)

学生スタッフ大募集!

ボラセンとは?
ボランティアをしたい龍大生の皆さんと、ボランティアを募集している団体をつなげる役割をしています。

学生スタッフとは?
ボラセンで活動している龍大生です。ボランティアを探している学生にボランティアを紹介したり、相談に乗ります。また、龍大生がボランティアに参加し、興味を持つきっかけとなるような企画を立ち上げて進めていく活動をしています。

学生スタッフの人数→58人!! 一緒に活動しませんか?

ガイダンス日時: 12:45~13:20
10月 5日(月) 10月 7日(水) 10月 8日(木)
10月12日(月) 10月14日(水) 10月15日(木)
場所: ボランティア・NPO活動センター(瀬田) ガイダンス申込Googleフォーム

要チェック!
ボラセンの最新の活動が見れる!!

Twitter @ryuvnc
メール: ryuvnc@ad.ryukoku.ac.jp

ボラセンの場所



4. 学んだこと・今後の課題

- ・ROSW に向けて準備したが、受け付けてもらえずに残念であった。問い合わせたところ、理由について回答（深草の学生スタッフが先に申し込んでおり、同一団体ということで受け付けられなかった）を得ることができた。今後、申請基準などの事前確認が必要と感じた。
- ・オンライン新歓ガイダンスを計画したところ、多くの反応が得られた。動画作成のためにオンラインミーティングを行なったことで、オンラインでガイダンスできるので

事業名	(学生スタッフ限定) オンラインワークショップ (新規企画)
日時	2020年7月10日(金) 21時00分～22時00分
場所	各自宅でZoomを使用して参加する
実施主体	ボランティア・NPO活動センター(瀬田)
参加人数	学生20名
企画メンバー (学生スタッフ)	東 里音(社会3) 土肥 亮太(社会3) 大屋 晴太郎(農学3) 渡中 新太郎(農学3) 杉山 わかな(社会2)

1. 経緯・目的

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、昨年度の春合宿、今年度のオリエンテーション合宿が中止になった。加えて、1学期はオンラインでの授業となり、大学に入構できない状況となった。ボランティア・NPO活動センターでも、例年の対面での活動が行えていない。

このような状況でも、学生スタッフ同士で交流し、モチベーションを高め、学び合うことはできないかと考え、春合宿の企画メンバーを中心にオンラインワークショップを計画した。今回のオンラインワークショップでは、以下の3つのことを目的にして行った。

- (1) 直接会うことが困難な中でも、オンラインでワークショップを行うことで、学生スタッフ同士の交流を深め、互いに協力し合える関係性を築く。
- (2) オンライン会議のツールを使うことで、オンラインミーティングの手法を体験的に学ぶ。
- (3) 深草キャンパス、瀬田キャンパス合同で行うことで、両キャンパスの交流を図る。

2. 概要

ワークショップ「白樺荘の住人～厄介な人が集まっているアパートの住人調査～」

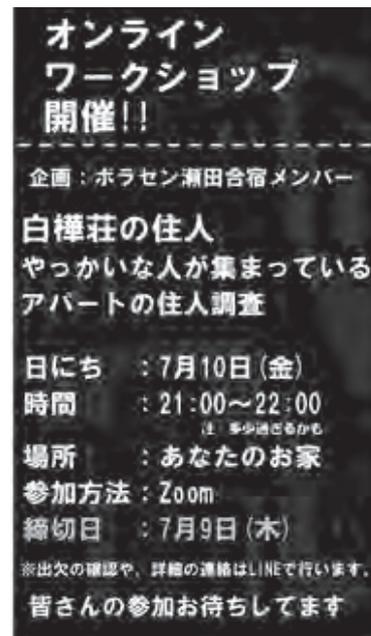
○設定

古いアパートを撤去することになったが、住人たちは、勝手な生活を送っており、立ち退く気配がない。そこで、数か月にわたる努力の結果、周辺住人やアパートの住人からいくつかの情報を得てきた。この情報の真偽を確かめつつ、住んでいる人と部屋番号を確定する。

○内容

4、5人のグループに分かれ（Zoomのブレイクアウトルームを活用）、一人4、5枚の情報カードを配布（カードはその人しか見ることができない。内容は異なっている。今回は事前に

メールで配布)。グループ内で、お互いカードの情報を共有し合いながら、住んでいる人と部屋番号を確定するという課題を解決する。最後に、Googleフォームでアンケートを実施。



3. 参加者の声・得られた効果など

- ・直接会えない中でもオンラインでワークショップを行うことができ、普段交流の少ない他のキャンパスの人とも話することができて楽しかった。
- ・グループ全員で協力しないと課題が解決できないようなワークであったため、積極的に質問をしていくなど、グループ内での自分の役割を意識しながらワークができた。
- ・オンラインのため、顔の表情が読み取りづらかったり、ラグが生じるので話し出しづらかったりと、オンラインならではの難しさがあった。慣れない状況であったが、話を聞くときは画面を見て頷くなどのリアクションをするように心がけた。
- ・かなり複雑な内容であったため、何を話しているのかわからなくなる時があった。何について話しているかをその都度確認し、

わからないことはそのままにせず、確認するようにした。この経験から、今後の活動でグループが方向を見失いそうになったときに、目指す方向の確認を積極的に促すようにしたいと思った。また、わからないところは確かめながら話し合いを進めていきたい。

4. 学んだこと・今後の課題

- ・事前にワークの資料や、Zoom の URL を参加者にメールで送信したが、パソコンでしか受信できない人もいたため、学生が連絡メールに気づけないというケースがあったので、LINE 等の学生がよく使うツールでも連絡をする必要があった。また、ワークショップ当日に連絡をしたため、メールに気がつかない人もいた。今後は、余裕を

持って連絡をするように心がける。

- ・事前のグループ分けや、グループの中でも異なる内容の資料を配布する必要があったため、当日の欠席や参加の対応に戸惑い、開始時間が遅れた。急な欠席者や参加者への対応を考えておくべきであった。オンラインの際は、事前に細かい準備が必要なワークは向いていないということがわかった。
- ・オンラインでも工夫することで、ワークをすることは可能だということが、今回実施したことによりわかった。今後もオンラインだからこそできるワークを考えていきたい。

9号室は昔教員だった人が住んでいたはずですが。親戚の娘さんが何年も一緒に住んでいたことがありました。でも、その親戚は卒業して田舎に帰って、ここにはいないはずですが。その隣の吉岡さんにでも聞いてください。

夏川氏の下は5号室になっていたのですが……。岡山さんときたら篠原氏の番号と同じにしたいと、強引にも隣どうし同じ番号に換えてしまいました。郵便局が間違えるたびにうれしがっているのです。

このアパートには、住人ではない人がたぶん3人はいるのではないかとささやかれています。3年前の夏には、久田さんと廊下で話している夏川氏を見ました。一番奥の彼の部屋の前でした。

久田さんの住んでいたところに、久田さんの親戚という占い師の女が来てから、どうにも嫌なことが続きました。久田さんが泣いていたのを見た人は多かったです。

(ワークショップで使用した情報カードの一部)

〈報告者：大屋 晴太郎〉

事業名	スプリングワーク～GLK～
日時	2021年3月23日(火) 11時00分～17時00分
場所	オンライン
実施主体	ボランティア・NPO活動センター(瀬田)
参加人数	学生スタッフ17名 コーディネーター1名
企画メンバー(学生スタッフ)	土肥 亮太(社会3) 大屋 晴太郎(農学3) 井尻 由梨香(社会2) 杉山 わかな(社会2) 片岡 克望(社会1) 中西 亮太(社会1) 平石 陽菜乃(農学1)

1. 経緯・目的

今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、思うような活動ができなかった。また新学生スタッフの加入時期が大幅に遅れたため新学生スタッフの活動経験が圧倒的に少なく、ボランティア・NPO活動センター(以下、センター)の理解についての不安が大きかった。更に学生スタッフ同士の交流の機会も少なかった。そこで今回のスプリングワークでは、下のことを目的として実施した。

- ・コロナ禍で、直接会えない中でもオンラインワークを行うことで学生スタッフ同士の交流を深め互いに協力し合える関係性を築く。
- ・今年度の活動をふりかえり、課題を発見し、解決策を話し合うことで来年度の活動につなげる。
- ・センターの事業に対する理解を深め、学生スタッフとしてパワーアップを図る。

2. 概要

- 11:00 自己紹介ワークショップ
ブレイクアウトセッションに分かれてそれぞれ自己紹介を行う。その後、自分の好きなものを5個書き出してそこに1～5の数字を個人で割り振り、グループ内の他の人から指定された数字に書いてあるものについて順番にグループ内で紹介するワークを行った。
- 11:45 休憩
- 11:50 1年のふりかえりワークショップ
1年間あったこととその感想を個人で書き出し、その中から特に印象に残ったこと3つを決め、グループ内でそれぞれ共有した。その後、個人で来年度の目標を考えて、再びグループ内で共有した。最後にジャムボードを利用して、印象に残ったことベスト3と来年度の目標を全体で共有し、後から見返すことができるようにした。

12:50 昼休憩

13:50 センター理解ワークショップ
パワーポイントの資料を用いて、センターの組織構成、学生スタッフになる方法、学生スタッフや班活動について、2019年度の1年間の流れ、といった内容について説明を行った。その後、2回生と3・4回生のペアを作り、3・4回生が新歓などでのセンター紹介の手本を「ボラセン紹介チェックシート」に基づいて実践し、次にその手本に倣って2回生が、3・4回生に向かってセンター紹介をするというワークを行った。

14:50 休憩

15:00 交流会ワークショップ
前半15分は、1人が「～といえど？」というお題を出して残りの人がそれに対する答えを考え、一斉に発表し、答えをそろえるというゲームを、グループと全員で1回ずつ、計2回行った。後半は、グループに分かれてクイズ大会を行った。

15:50 休憩

16:00 企画を知ろうワークショップ
パワーポイントの資料を用いて、企画の基本的な仕組みや、現在瀬田キャンパスで動いている企画についての説明を行った。

16:50 締め・まとめ



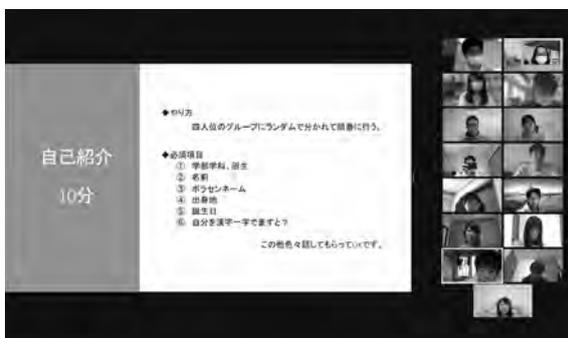
3. 参加者の声・得られた効果など

- ・企画やプログラムが練って作られていたので、長時間にもかかわらず、楽しんで参加することができた。
- ・学生スタッフ同士の交流のパートとボラセンについて学ぶパートとのバランスが良く、とても有意義な時間を過ごせた。
- ・適度にもうけられた交流プログラムでリラックスできたので、センター理解のパートにも切り替えて臨むことができた。
- ・1回生にとっては企画について学んだり、センターについて学べる良いきっかけになったと思う。

グの時間を多く取ったりするなど、今後の合宿はミーティングの段階から考え直さなければならぬと感じた。

- ・スプリングワークの参加者数やアンケートの回答人数がとても少なかった。まめに呼びかけるなど参加や回答を更に促す必要があった。

〈報告者：杉山 わかな〉



4. 学んだこと・今後の課題

- ・機材トラブルや準備にかかる時間をあまり考慮できていなかった為、今回重要なプログラムを中止することになってしまったり、各プログラムで時間が足りなかった。今後はゆとりを持って時間配分を考えるべきである。
- ・実際に進行していく上で想定していなかったことが起こり、たびたびパニックに陥った。事前に起きるトラブルを想定したり、もっと綿密にリハーサルを行ったり、リハーサルの回数を増やすなどの工夫が必要だと感じた。
- ・話す内容をあまり考えていなかったことが反省点。
- ・とても内容の濃いものができたが、それに時間が伴っていなかった。オンラインで時間を延ばすのは抵抗があるため、ワークごとに日を分ける等の工夫が必要であった。
- ・全体の計画を立てていたものの、思ったより時間がなく、結局計画どおりに進めることができなかった。また、資料作成の時間が十分に取れず準備不足を感じた部分もあった。早め早めに動いたり、ミーティン

事業名	深草キャンパス学生スタッフの活動
日時	2020年9月～2021年3月
参加者	学生スタッフ（深草）

1. 経緯・目的

深草キャンパスでは、学生スタッフが企画書を作って実施する活動は行われませんでした。しかし、活動を止めていたわけではありません。毎年、春休みに実施している合宿の代わりに春休み中の学生スタッフミーティングを拡大し、一年間の振り返りや来年度の目標づくり、新歓に関連するミニワークショップ、卒業を目前に控えた先輩たちから話を聴く機会をつくるなど、対面での活動再開に向けて試行錯誤しながら活動を行っていました。



2. 概要

(1) 「ふりかえり」と「目標づくり」

1) 2020年度のふりかえり

- ・2020年度前半はあまり会えず、学生スタッフが何をするのか余り分かっていなかった。しかし、後半になると少しずつ会えるようになり、活動にも参加できてきたので、来年はもっといろんなことに関わっていきたい。
- ・オンラインを活用していろいろなことを行って、新しいことに沢山挑戦できた一年であった。
- ・長い新歓も大変なことは多々あったが、頑張ることができた。 等

2) 2021年度の目標

① ボラセンに関する個人目標を発表。

- ・周りのことを見て行動する。意見、気づきを口に出してみる。いろんな事にチャレンジする。
- ・来室者に積極的にコーデしていきたい。
- ・積極的に活動する！その上で、周りも巻き込んでいく！ 等

② ボラセンに関する全体目標の話し合い。

- ・ひと、学び、成長との出会いの場所になれるように。
- ・「また来たいと思ってもらえるようにボラセンの魅力を広く認知してもらおう」に決定

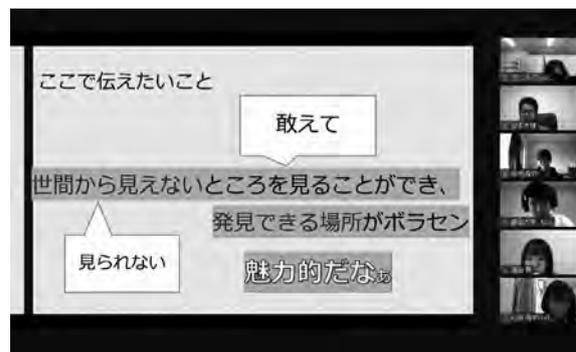
(2) 「理想の学生スタッフとは？」

グループに分かれて話し合った。

- ・話をよく聞いて受け止める人
- ・誰かを支え、人のためになりたい人
- ・やりたいことや目的をもっている人 等

(3) 4年生から後輩に送る言葉

4年生有志がそれぞれパワポ資料を作って、この4年間の気づきと送る言葉を語った。



- ・企画に参加し、リーダーを務めると辛いこともあるが、この経験は社会に出たら役に立つと思う。自分自身、ボランティアに参加してみて、苦手意識は思い込みだったことに気付くことができたので、ボラセンには成長につながる貴重な体験や機会がたくさんあると感じている。(樋口)
- ・コーデ班の班長をして学んだことが非常に大きいと思っている。この経験から「リスクがあると感じても、挑戦したことで新しい可能性を生み出せると感じた」「みんな前例に縛られがちなので、自分が思うやりたいことは恐れずやってみるべき」だと思う。(中川)
- ・様々なボランティア活動や職員さん、同期との出会いが自分の成長につながったので、皆にも積極的にボラセンに来る情報を活用して、たくさんの方に挑戦してみしてほしい。(松田)

- ・ボラセンで活動をしていくなかで、「言葉」の重要性を感じたので、後輩たちにも大事にしてほしい。(川村)
- ・ボラセンでの活動は、自分が普段見ないところや社会に隠れてしまっている部分に気づかせてくれた。そんな魅力的な場所がボラセンだ。積極的にボラセンで活動してみしてほしい。代表をやってみて、みんなをまとめるのはしんどかったけれど、いい経験になるから、やりたいことをやってみてほしい。(吉田)



3. コーディネーター所感

対面で集うことが難しく、なかなか思うように物事が進まず、学生スタッフにとってストレスの多い1年であったと思いますが、オンラインや動画を活用し、工夫を凝らした活動ができていたのではないかと思います。

対面の活動が再開（制限はあり）された直後（後期）からは、どう活動を再開し、どう新スタッフを仲間として迎えるのかを試行錯誤する日々でした。ミーティングをオンラインと対面のハイブリッド方式で開催してみたり、動画を活用するなど、新しいチャレンジを行っていました。

また、ボランティア活動にも気軽に行ける状況ではなかったのが、学生スタッフが個人的に参加している『プラネット』という自閉症の子ども達の外出支援をしているボランティア活動で、オンライン運動会を企画し、その準備や当日の運営・応援を、間接的にたくさんの学生スタッフが関わっていました。このような学生スタッフの柔軟な動き方に、こちらが刺激を受けていました。

卒業コンパも出来ないのが、4回生の有志が春休みのミーティングにオンラインで参加し、それぞれの4年間をふりかえっての気づきについて語ってくれたことは、とても嬉しく思いました。対面で会い難い日々の中で、先輩たちの

話をこうやって聞くことができたのは、非常に貴重な機会だったように感じています。

〈報告者：竹田 純子
(深草キャンパスコーディネーター)〉